

「だいち2号」観測データの解析による 箱根山の大涌谷周辺における地殻変動

5月上旬以降、大涌谷内の狭い範囲で膨張性の地殻変動が継続していましたが、6月末に発生したごく小規模な噴火以降では、収縮性的変動が生じている可能性があります。

【解析結果】

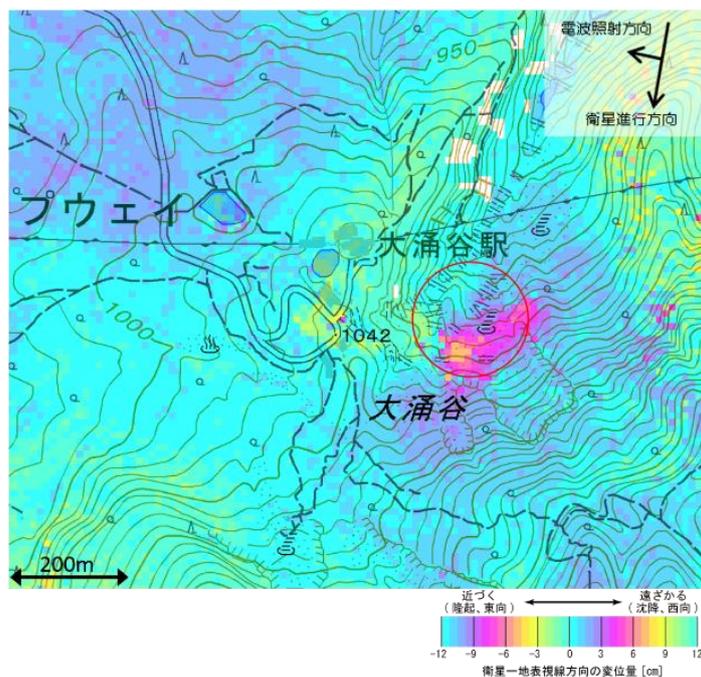


図1：2015年7月2日～2015年8月27日の解析結果

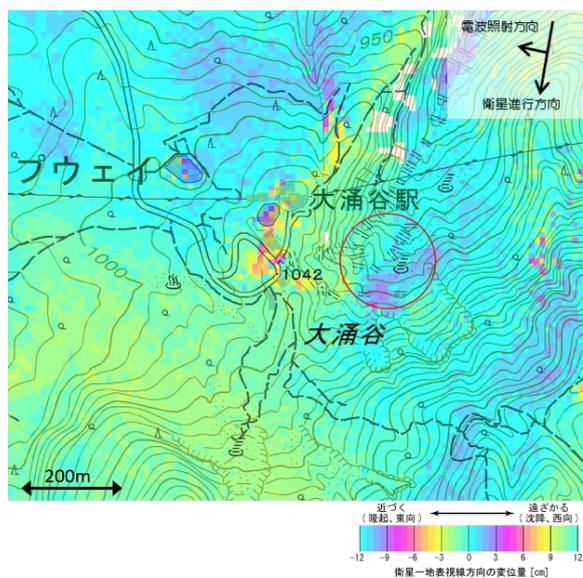


図2：2015年7月2日～2015年7月16日

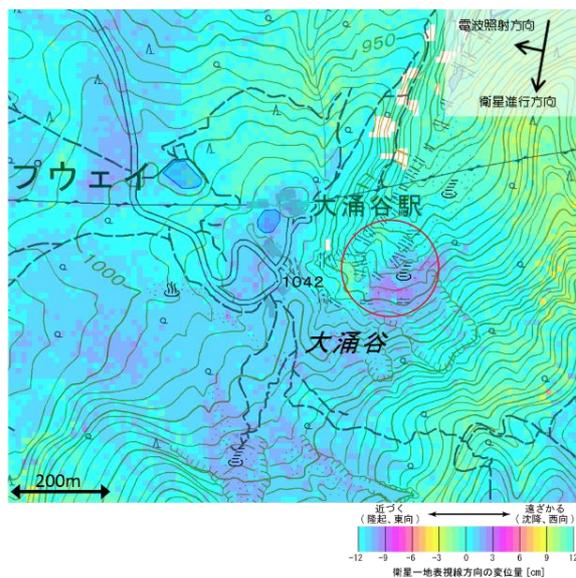


図3：2015年7月16日～2015年8月27日

<解析結果からわかること>

- ・2015年7月2日から8月27日の8週間の解析結果（図1）では、これまでの変動の範囲（赤枠）で、最大7cm程度*の衛星から遠ざかる地殻変動が見られます。変動が最大の箇所は、6月末のごく小規模な噴火に伴って生じた火口・噴気口の近傍です。
- ・7月2日から7月16日の2週間（図2）と7月16日から8月27日の6週間（図3）の解析結果においても、ノイズレベル*と同等ではありますが、それぞれに最大3cm程度*の衛星から遠ざかる地殻変動が見られます。
- ・このことから、6月末に発生したごく小規模な噴火以降、収縮性の変動が生じている可能性があります。

※ 干渉 SAR の精度は一般的には数 cm 程度とされています。また、衛星の観測条件が異なる場合、同じ地殻変動であっても、解析結果の見え方に違いが生じます。

今回の結果は速報値であり、今後より詳細な分析等により、結果が更新される場合があります。なお、これらの解析結果は国土地理院「大涌谷周辺（箱根山）の火山活動に関する情報」ページで公開しています。

(<http://www.gsi.go.jp/kikakuchousei/bousaichousei/h27-hakoneyama-index.html>)